

よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニックのご紹介



院長 奥井伸雄

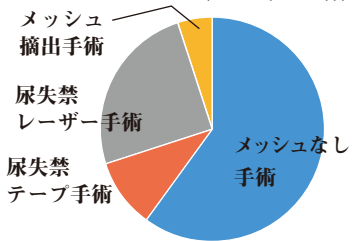
よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック（通称：よこすか女性泌尿器科）は、今年11年目を迎えます。2年前に横須賀中央駅徒歩4分のリドレに移転し、2年続けて年間800件の骨盤臓器脱や尿失禁手術を日帰りで行っています。今回は、院長の奥井医師に女性泌尿器科分野のインタビューを行いました。今日は「尿失禁」についてです。

毎日4件の手術をするには理由がある

たくさんの方の手術を確実に実施することには大きなメリットがあると言われます。骨盤臓器脱手術は、現在日本ではメッシュという人工物を用いた手術が多くありますが、英国や米国では副作用の問題が重要視され、メッシュを用いた手術を見直しています。とくに、英国での政府の声明や、豪州産婦人科学会が反省まで称したのは、重大に受け止めるべきです。こうして早く、毎日新聞や日経ヘルスにメッシュの問題について取り上げ、メッシュを用いない手術を見直す動きが出ています。奥井医師は、かなり技術が必要なのです。メッシュなしで骨盤臓器脱の手術をするという事は、人工物なしで骨盤臓器脱の手術をするという事は、かなり技術が必要なのです。メッシュなしで骨盤臓器脱を修復する手術は、数種類あります。一般にそれぞれ年間100件以上は執刀していないと技術が維持できません。そこで、毎日4人の治療をすることで、手術中にいろんな手術方法から適切な技術を組み込む応用力が発揮できます。（奥井）

2017年度 **819件**

(2016年 789件)



様々な職員のサービスや認知機能や高齢者のみならず、日帰り手術をする危険のある高齢者のみならず、筋力低下の危険のある高齢者のみならず、日帰り手術。当院の手術件数はハーバード大学ブリガム女性病院に並びました。

ハーバード大学やロンビエ大もメッシュなしの方針

奥井医師が修行したハーバード大学ブリガム&ワイメンズ病院は、この手術で全米でトップクラス。当然、最先端のメッシュ手術かと思っただけで、彼が在籍していた頃からメッシュなしの手術に至るまで、術が大多数を占めます。さらに、ロンビエ大の最新論文でもやはりメッシュなしでその人の筋肉を上手に利用して治しています。「こうした基本手術の背景には、無理をせずに入院することが大切になります。米国では骨盤臓器脱の手術は日帰り手術です。これは、修復したあとに、自宅にもどる筋肉に刺激を与える効果が出ます。」

が弱くなったりしてその女性が受ける人工物の手術がさまざまな弊害を起すように感じました。我々手どうして、奥井医師は、退院したらその術を重視するようになつたのかし、何年か先には、開業以来、多うなものは手術の方の取り扱いをといえませんが、そこをどうするかは、在宅医療や看取りを学んだ基本手術は医師を育てるをもっと完成度高く進めようと思つたのです。」

どんな年齢でも治療する方法がある

奥井医師のポリシーは、どの年齢でも方法を探すことだ。大学では治療できないとされ、重症の骨盤臓器脱を何人も治してきた。「東日本各地の大学から依頼され、リスクもある。した。」

〈医院・院長の紹介〉

よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック
046-1823-18456
(完全予約制)
※混合診療はできません

院長 奥井伸雄

東京大学大学院修了後、ハーバード大学ブリガム女性病院で手術を学び、東京都内の3つの大学病院での手術指導を続けた。米国時代はトップオブニオンリーダー（世界の医師1000人）に二度選出され、国内の多くの医学賞を受賞。本年度は神奈川県医学会より学術功労者に選出された。毎日新聞執筆者・Yahoo!ヘッドライン執筆者として、多くの医学情報を発信。新聞・雑誌の印税はすべて「女性医療」へ寄付している。52歳。

